

Duo



発行：美唄市男女共同参画推進協議会事務局（美唄市役所地域経営室内）
〒072-8660 美唄市西3条南1丁目1番1号 TEL 0126-62-3137
FAX 0126-62-1088 e-mail kikaku@city.bibai.lg.jp

*「デュオ」とは、イタリア語で「二重唱」、「二重奏」を意味する言葉です。 (会員募集中！(年会費1,000円))

美唄市男女共同参画推進協議会の役員が改選されました。

会員の皆さんこれから2年間よろしくお願ひします。

会 長	根賀 松子	幹 事	前川 和子	吉村 俊子	後藤 和枝	山田 進
副 会 長	高島 史図	監 査	金澤 壽美子	舩森 慧津子		
事務局 長	佐藤 裕子	会 計	松田 彰紀			

防衛省の男女共同参画について

陸上自衛隊美唄駐屯地広報室

美唄の夏のイベント、歌舞裸まつりが開催され、市民が一丸となって夏を楽しむ季節が到来しました。皆様におかれましては夏を十二分に楽しまれているところと存じます。

さて今回は、防衛省における男女共同参画についてご紹介したいと思います。

昭和25年に前進である警察予備隊が創設され、昭和27年には保安隊となり、婦人保安官（ナース）が誕生、昭和29年に防衛庁が開庁し現在の自衛隊となり、昭和43年に婦人自衛官教育隊（一般隊員）が発足しました。



男女共同参画については、平成14年に婦人自衛官という呼称から女性自衛官への改正、陸上自衛官の女性用作業服の改正等の施策から始まり、近年においては、災害派遣や国際平和協力活動における女性自衛官の活用や、女性自衛官と女性事務官等の増加、託児施設の整備、育児休業代替要員制度の整備、子育てや介護の状況に配慮した人事等、勤務時間が不規則になることが多い自衛官の勤務の特性に対応した施策を推進しているところです。



(次ページへ)

(前ページより)

現在、約11,000人の女性自衛官が、様々な職に就き海外および全国各地の自衛隊で活躍しています。イラク人道復興支援においては、多くの女性自衛官が派遣され、激しい気温の変化や突然の砂嵐等の厳しい自然環境の中、イラクの人々や屈託のない笑顔で手を振る子供達の為に、共に汗を流してきました。



美唄駐屯地に所属する女性自衛官と女性事務官等についても、子育てと職務を両立し、男性自衛官と同様に日々の訓練等に邁進しています。真剣な眼差しと、職務を実行する姿には、感銘を受ける毎日です。

陸上自衛隊美唄駐屯地は、創立三十周年を迎え、地域とともに着実に発展を遂げてまいりました。防衛省となった今、一層厳格な規律を保持し「地域の皆様に信頼される即応性の高い精強な部隊」を目標として、今後も邁進していくとともに、男女共同参画の推進を図っていききたいと思います。

会員リレートーク 15

(会員 野崎 美恵子)

私は臨床検査技師として今年で満38年勤めた。仕事としては恵まれているほうで、給料が男だから高いとか女だから安いということはない。

しかし、昇進となると転勤が条件であることもあって女性の技師長は稀で全体では数パーセントにすぎない。また、産前産後の休みや子どもの病気などで休みをとることで「女は休んでばかりで仕事にならない」などと上司に嫌みを言われて仕事を辞めたいと思ったこともあるがみんなに励まされてなんとかやってきた。



私の職場では男性に比べると女性技師が少ないが、最近では女性にしかできないことが増えてきて、みんなでがんばっている。

時代も変わり、男性も育児や家事をするようになった。私の職場の男性の皆さんも仕事はもちろん、育児や家事に奮闘している。今では男女の差別なくそれぞれ、責任をもって仕事をやりきっている。これが小さな単位の男女共同参画社会ではないのだろうか。



身近な男女共同参画についての情報や「Duo」の感想などを事務局までお寄せください。お待ちしております。

*事務局: 〒072-8660 美唄市西3条南1丁目1番1号 美唄市役所地域経営室内(担当: 松田)
TEL 0126-62-3137 FAX 0126-62-1088 e-mail kikaku@city.bibai.lg.jp
*会報「Duo」は、美唄市の男女共同参画ホームページ(<http://www.city.bibai.hokkaido.jp/danjo/>)の中で「市民団体の取り組みの紹介」として掲載されています。

男女共同参画についてまちづくり出前講座でご説明します(申込先: 美唄市役所地域経営室 TEL0126-62-3137)
*会場と時間を設定して頂ければ、市の担当職員が説明にうかがいます。

「ジェンダーフリー」という言葉、ご存じですか? 「セックス(生物学的な性差)」に対し、文化・社会的につくられた性差を「ジェンダー」といいます。この「ジェンダー」ととられず、男女とも自己の個性を發揮してゆこう、というのが「ジェンダーフリー」の指向です。

ところが、近年、このジェンダーフリー運動に対するバックラッシュ(不当な揺り戻し)が強まってきています。いわく、

「中性人間を作ろうとしている」「性差の一切を否定している」「伝統文化を破壊する」、などなど。

ジェンダーフリーを誤解して極端な実践をしている人がいるのは事実です。例えば、「更衣室を男女共用にする」「男女一緒に運動会で騎馬戦をやり、身体を接触させる」などです。バックラッシュ派はこれらを槍玉に上げて、ジェンダーフリーを全否定しようと躍起になっています。しかし、「更衣」や「身体接触」は、上記の「ジェンダー」の問題ではなく、「セックス」の領域のことであるのは明らかです。性(セックス)をはじらうのも文化であり、それは否定されるべきものではありません。



ジェンダーフリー推進派は、例えば学校教育の場で、クラス委員を男女1名ずつ選出する際、男子の委員を



「級長」、女子を「副級長」と呼ぶことを廃すとか、身体測定や男女別の体育を除く学校生活の中では男女混合名簿を用いるとかいった主張をしているに過ぎません。

「男性が主で女性が従、といった既成観念を打破する」「性区別が不必要な場面ではいちいち性別に言及しない」というのがその趣旨です。

人は、自分の性別を選んで生まれてくることはできません。「当人の意志や努力で決めたり変えたりできないことについては、人は不利益をこうむってはならない」というのが近代の「人権」の基本です。ジェンダーフリーもその延長線上にあるものと考えられます。正しい理解が普及することを願ってやみません。

「デュオの会」屋外活動

「デュオの会」の存在と活動の理解を深めてもらうことを目的として、2月4日の「スノーフェスタ」で会報を配布し、PR活動を行いました。

配偶者暴力相談窓口について

配偶者からの暴力で困っている方などの相談を受ける窓口を設けています。このような方については「配偶者からの暴力の防止および被害者の保護に関する法律」により、専門の相談や必要に応じて一時保護をする施設の入所、配偶者の接近禁止などの申し立て制度ができています。この法律についてのお問い合わせや相談がありましたら、市役所の女性相談窓口または女性相談援助センターまでお気軽にご連絡ください。

* 女性相談窓口 美唄市役所地域経営室 62-3137 (受付・・・月～金、8時45分～17時15分)

* 道立女性相談援助センター(札幌) 011-666-9955 (受付・・・月～金、9時～17時)

みんなが認め合うことが大切

専業主婦がある日から兼業主婦(?)になる 今回はそんな一人、S・Kさんにお話を伺いました。



外に働きに出たのは最初からの計画?

「いいえ。両親の介護の役に立てばと『ホームヘルパー2級』の講習を受けたんだけど、子どもも手が掛からなくなったし誘われるままに『ヘルパー』の仕事を始めたの。もう6年になるかしら。」

ご主人やご家族の反応はどうだったのかしら。仕事を始めてご家族に何か変化は?

「一口に言って『大きな変化は無い!』かな?子ども達は既に高校生、中学生だったし、夫は元々何でもできる人だったから。あるとしたら、私の方かもね。確かにいろんな事をやってはいたんだけど、あくまでも家庭の延長でしかなかったのね。社会に対して責任が無かったというか・・よく言われるけど『Kさんの奥さん』『Mちゃんのお母さん』じゃないのね。あくまでも『Kさん』なのよ。なんか背筋がシャキっとするのね。だから、私自身の物の見方が変わったと言うのかしらね」

お仕事をとおしてご自身の家庭を見たとき『我が家の男女共同参画』と聞いて感じることは?

「相手を認める事かな。そして協力。みんなそれぞれやりたいことが有るでしょ。今までだと、つい自分中心で考えてしまっていたのね。『お母さん都合つかないからダメ』なんてね。でも、できる人に頼めばいいじゃないってね思ったの、夫でも子ども達でも。子ども達の送迎は夫でもいいわけだし、食事の準備や後片付けだってそうでしょ。掃除なんて埃が溜まったって死にやしない。息子達だって自分の弁当箱出して洗うし、お米だって研いじゃう。夫は自分の服にアイロンかけるし、食事だって作っちゃう。私も簡単な家の修繕なんか自分でやっちゃう。男の仕事・女の仕事じゃなく『家の仕事』なのよね。そう考えたら『男女共同参画』なんていかめしい名前が付いていても『男・女で差別せず得意なこと、できることはやりましょ』と言う事じゃないかと思う。」

聞き書 野



編集後記

2007年の男女共同参画白書によれば、「共働き世帯」での夫の家事・育児・介護にかかる総平均時間が25分であるのに対し、妻は4時間12分であるという。一方、「夫が有業で妻が無業」の世帯では、夫は32分で妻は6時間59分。つまり、妻の就業の如何にかかわらず、家事や育児、介護には女性が担っている割合が圧倒的に高いという構図である。



「ワークライフバランス」という言葉がある。仕事と生活の調和という意味で、老若男女誰もが自ら希望するバランスで仕事や家庭生活などを展開することである。それぞれの職場の就業条件やそれをとりまく基本構造にもよるだろうが、根底にやはり「女性は第一義的に家事や育児をするものだ」という意識」が多くの人にあるからではないか。

まだまだ道のりは遠い。Duoの編集はスタッフそれぞれワークライフバランスを図りながら進めていきたいものである。(高島)